２０２３年度　研修実施計画

Ⅰ　２０２３年度 研修計画

１　授業研究

（１）研究主題について

ともに学ぶ楽しさを味わい，主体的に活動する子どもをめざして ～子どもから出発する授業～

（２）主題設定の理由

本校は，研究主題を『ともに学ぶ楽しさを味わい，主体的に活動する子どもをめざして』と掲げ，３年間社会科・生活科で研究を続けてきた。主に社会科では，１つの課題に対して多面的な見方を働かせて様々な考え方ができる。そして，資料の読み取りを通して根拠にもとづいた考えをもたせることで，疑問を出し合ったり，お互いの考えを聴きあったりしながら，学びあいに主体的に参加できるようになることをめざしてきた。実際，多面的な見方を広げていく活動を定期的に取り入れたり，教科書の資料以外にも様々な資料を効果的に示して子どもの興味関心を高めたりすることで，子どもが考えをもつことはできるようになってきた。ただ，児童がその考えを交流しながらともに学ぶ姿に繋げることができていないという課題が見えてきた。その大きな要因は，児童が根拠にもとづいた自分の考えをもつことができておらず，単に気づいたことや感じたことを交流していただけになってしまっていたということである。また，昨年度の全国学力学習状況調査，みえスタディ・チェックの結果から，算数科の学力が全国（・県）平均を大きく下回る結果となってしまっている。こうした現状を踏まえ，本年度からは，社会科・生活科から算数科に教科を変えて，算数の基礎学力の底上げをはかりつつ，算数科を窓口として『ともに学ぶ楽しさを味わい，主体的に活動する子どもをめざして』という研究主題にせまっていくこととした。

研究主題にある『ともに学ぶ』とは，課題解決を図るため，自分の考えの根拠をもとに，友だちと思考を共有・比較することを通して学びを深め，広げていくことと捉えている。そうした深い学びを通してよりよく問題解決することができ，「わかった」「できるようになった」「新しい考え方を知ることができた」ということに，ともに学ぶことの楽しさを感じる。続いて，『主体的に』とは，子どもたち自身が学ぶことに興味や関心を持ち，見通しを持って粘り強く取り組み，自己の学習活動を振り返って次につなげようとすることと捉えている。「次につなげる」というのは，算数科の場合で言うと，よりよい解決方法を求めたり，新たな問いを見いだしたりすることである。このような子どもから出た問いや疑問などをもとに組み立てる授業のことが，副題として設定してある「子どもから出発する授業」のことである。昨年度までの研修の成果として，子どもたちが学習内容を自分たちの日常の事象に結び付けて考えて自身の生き方に生かそうとしたり，さらに知りたいことを出し合って自分たちで課題設定したりするということはできるようになってきている。ただ，前述の通り，「ともに学ぶ」ということにはまだまだ課題がある。

「ともに学ぶ」ためには，一人ひとりが根拠にもとづいた考えをもつことに加え，友だちの考えと自分の考えを比べながら聴く力，そして筋道を立てて自分の考えを分かりやすく伝える力なども必要となってくる。こうした力をつけていくことで，本校がめざす子どもの姿に近づいていくと考える。よって，本年度は「課題解決に向けて筋道を立てて考えることができる学習の手立て」を重点課題に設定して，研修をしていくこととする。

（３）算数科におけるめざす子どもの姿

低学年	・基本的な言葉や数・式・図などをもとに自分の考えをもてる子 ・自分の考えを発表し，人の話を聴くことができる子
中学年	・言葉や数・式・図・表・グラフなどを活用して自分の考えをもてる子 ・算数用語を用いて自分の考えを説明し，人の考えを自分の考えと比べながら聴くことができる子
高学年	・言葉や数・式・図・表・グラフや既習事項などを活用して自分の考えをもてる子 ・算数的用語を用いて自分の考えを説明したり，人の考えを自分の考えと比べながら聴いたりして，よりよい考えを導き出せる子

（４）「読み取る」「かく」「学びあう」の学年部別目標

	読み取る	かく	学びあう
低学年	・分かっていること，問われていることを整理しながら読む。 ・簡単な絵や図から，量の大きさやデータの個数を比べる。	・図，式，言葉や文を用いて，自分の考えをかく。	・聴き手を見て，最後まで文の形で話す。 ・理由をつけて話す。 ・話し手を見ながら聴く。 ・友だちの考えでわからないことについて質問をする。
中学年	・順序を表す言葉や文末の表現，段落の構成などに着目しながら文章の題意を読み取って立式する。 ・図や表，グラフなどからデータの特徴や傾向を読み取る。	・図，式，言葉や文，表，グラフなどを用いて，自分の考えをかく。 ・算数用語を用いて順序よく自分の考えをかく。	・聴き手の反応を確かめながら話す。 ・算数用語を用いて順序よく話す。 ・図，式，表などを用いて理由をつけながら話す。 ・話し手を見て反応しながら聴く。 ・自分や友だちの考えと比べながら聴く。
高学年	・順序を表す言葉や文末の表現，段落の構成などに着目しながら文章の題意を読み取って，絵や図，表などに表してから立式する。 ・図や表，グラフなどからデータの特徴や傾向を読み取ったり，複数の資料を比較して違うところ，似ているところなどを読み取ったりする。	・課題に応じて，図，式，言葉や文，表，グラフなどを効果的に用いて，自分の考えをかく。 ・算数用語を用いて，筋道を立てて自分の考えを簡潔に分かりやすくかく。	・聴き手の反応を確かめながら話す。 ・算数用語を用いて根拠を明らかにしながら，筋道を立てて話す。 ・図，式，表など，必要な資料を活用しながら理由をつけながら説明する。 ・友だちの考えを理解しようと，話し手を見て反応しながら聴く。 ・自分や友だちの考えを比べて，共通点や相違点を考えながら聴く。

（５）研究内容

①　基礎・基本の定着に向けた取組

・「読み上げ計算シート」で計算の反復練習をして，基礎学力の定着を図る。
・児童のつまずきを事前に把握するために，レディネス問題を適宜行い，授業改善を図る。
・家庭学習強化週間を設け，その期間に様々な難易度（・単元）のプリントを用意して児童自ら難易度（・単元）を選んで取り組ませることで，児童の習熟度に応じた課題設定をする。
・ふり返りを記述のみにこだわらず，適応問題をさせることで学習状況の定着を確かめる。

②　課題解決に向けて筋道を立てて考えることができる学習の手立て

・自分の考えを伝える際には，「意見（～だと思います）→理由（なぜかというと)」の型を徹底させて，根拠にもとづいて考えさせることを意識させる。
・問題解決までの過程を説明する活動を重視する。
・思考ツールを活用して，共通点や相違点などを整理しながら考えを視覚化させる。
・ＩＣＴ機器を活用して，図や表，グラフなどを指し示しながら発表させる。

③　考えを伝えあい，ともに学びあう学習の手立て

国府小学校における学びあうとは ペアやグループ，全体において考えを伝えあう学習活動で，児童どうしがそれぞれの思考を共有・比較することを通して，考えが広がったり，深まったり，変化したりすること。

・その学習活動でのペア・グループ活動のねらいを明確にして授業に取り入れる。
（例）〇自分の考えを確かにして深めるために。(自信)
〇他の考えに気付き，思考を広げるために。(ヒント)
〇考えの相違点・共通点を聞き合うことで思考を深めるために。(比較)
〇考えを出し合い協働して解決するために。(協働，練り上げ)
〇新たな考えを創り上げるために。(新たな発想)
・算数用語を使って伝えあう場を設定し，算数用語を使って自分の考えを表現する力を身につけさせる。
・考えがもてない児童も授業に巻き込む。「何が分からないのか」「どこまで分かったのか」「どう考えようとしたのか」の意見も全体で共有して学びあいにつなげる。

（６）研究方法
① 全体研究授業
【全体研究授業】
算数科…２本　人権…１本　支援学級生活単元１本　を実施。

【研究授業にかかわって】
・自習及び支援体制を整え，全職員が授業を参観する。
・教育委員会教育指導課より講師を招聘し，事後検討会を実施する。事前検討会は学年部を中心に行う。ただし，授業者が希望した場合，自主研修会で実施する。
・事後検討会においては，学年からの視点をもとにマトリクス法を中心として全員で授業のふり返りを行う。ただし，提案者の要望に応じてグループ別協議や概念化シートでの研修も検討する。
・全体研究授業を実施しない学年は，学年部別研究授業を実施する。
・全学年とも指導案は細案とする。

② ノート指導研修会
・年度初めにノート指導研修会を実施して，全学年でノートの書かせ方の共通理解をはかる。その後は必要に応じて実施する。
・定期的に学年部で児童のノートを持ち合い，交流をはかる。

③ 「ともに学びあう」ためのよりよい授業づくり
・ＰＤＣＡサイクルを念頭においた，研修の推進。
・自主研修会の実施。

④ 授業力向上にむけた取り組み
・個々の授業力向上をねらいとして，学期ごとに２週間の授業参観の機会を設定する。
・全教職員が自由に授業を見合う。参観者は授業者へ指導力向上シートを提出し，意見交換する。
・授業力up５，国府小学校授業づくりの十か条プリントをもとに授業づくりの共通理解を図り，定期的に重点目標を掲げて取り組む。

⑤ 研究成果の検証
・学習の様子や算数科の学習に関するアンケートを通して，子どもの意識面の実態把握を行う。
・全国学力学習状況調査やスタディ・チェック等の分析を全教職員で行う。分析結果をもとに本校児童の課題を確認し，授業改善をはかる。
・各学期のたしかめのテストに全学年で取り組み，学力の伸びをはかる。

⑥ ＴＴ指導
・４，５年生算数科でＴＴ指導を実施し，特にＣ・Ｄ層の児童へのきめ細かな支援をして，学習内容定着をはかる。

⑦ 各種研究発表会及び研究会への参加と還流報告会
・鈴教研委託発表会や各市町の研究発表会への参加を，教職員全員で行う。

（７）年間計画

	実施内容（予定）
１学期	・２０２３年度研修実施計画作成（４月） ・算数ノート指導研修会（４月） ・学調，みえスタディ・チェックの実施（４／１８）自校採点及び結果入力と分析 ・授業力向上にむけた取り組み（ぐるぐるウィーク） ・全体研究授業・学年部研究授業（教科・人権） ・自主研修会，算数科実践交流会 ・算数科アンケート実施（４月，７月） ・夏期休業中の補充学習 ・学調，みえスタディ・チェックの分析
２学期	・全体研究授業・学年部研究授業（教科・人権） ・授業力向上にむけた取り組み（ぐるぐるウィーク） ・自主研修会，算数科実践交流会 ・算数科アンケート実施（１２月）
３学期	・第２回みえスタディ・チェックの実施（　／　）自校採点及び結果入力と分析 ・授業力向上にむけた取り組み（ぐるぐるウィーク） ・自主研修会 ・算数科アンケート実施（２月） ・各学年及び研究のまとめ（２月中） ・来年度の方向性（３月上旬）

２　より充実した校内研修に向けて

（１）　KOU タイム・朝の学習・読書について

	朝の読書	KOU タイム・朝の学習
目的	本に親しみ，読書の習慣を身に付け，言語力・思考力・集中力をつける。 （小説，字が多い本に限定）	・国語（１５分×３日） ・低学年は算数・国語の基礎基本の定着
日時	月・木 ８時２０分～８時３５分までの１５分間	火・水・金 ８時２０分～８時３５分までの１５分間
内容	自分の席で，自ら選んだ本を静かに読む。 （一人２冊本をもっている状態が基本） ２冊選んでも，その本を読み続ける。	・国語（漢字・読み書き・ローマ字） ・読売新聞学習プリント ・視写プリント
指導	※８時２０分に子どもたちを着席させ，朝読を開始させる。	新聞プリントの指導方法は研修部より提案し，校内で統一する。

（２）図書館教育について

・図書室を効果的に活用した授業づくりを推進する。
・図書の充実と図書室や学年文庫等の学習環境を整備する。
・読書習慣の育成に取組む。
・図書館だよりを通じて，保護者への啓発に取組む。

（３）家庭学習について

・家庭学習の内容や量，取組む時間等，学年の実態を踏まえて系統的に指導する。
・家庭学習の習慣を身につけるための取り組みを進める。「チェックシート」の活用。
・生徒指導部と連携し，スクリーンタイムについても家庭へ協力を呼びかける。
・『家庭学習の手引き』を作成し，家庭との連携を図る。
・自主学習の推進を図る。

（４）夏期休業中の補充学習について

・夏期休業中においては，２日間の補充学習を実施し，支援を必要とする児童の基礎的知識・技能の向上を図る。
・学習ボランティアを活用して，学校と地域が協力して学習にあたる。

（５）ICT 活用について

・ICT を効果的に活用した授業作りを推進する。
・算数科における効果的な ICT の活用のための職員研修を行う。

（６）校内掲示について

・校内掲示板や階段などを有効活用して，算数用語や計算問題，児童の手本ノートなどを貼り出して，既習内容を日常的に目に触れるようにする。

（７）自主研修会について

・自主研修会を定期的に実施し，日頃の実践を交流したり，悩みを相談したりしながら指導力の向上を図る。